

地域の方々の信頼を集めて 安心の医療を提供する急性期病院

独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 神戸中央病院

(神戸市北区) 病院長

大友 敏行



区内では最も規模の大きな公的病院になりますので、区民にとつてより身近で安心感のある地域医療を提供すると共に、大学の関連病院、また数々の研修認定を受ける中核病院として、より高度な医療の提供に努めています。

本院は戦後もない1948年に健康保険神戸中央病院として神戸市中央区(当時は生田区)中山手に開設されました。当時、健康保険制度を作ったものの、焼け野原で受診する病院もない状況だったので、全国に社会保険病院が作られたのです。当初は大倉山の神戸大学医学部附属病院の北側に建てられました。神戸市立中央市民病院も加納町にあった頃です。

その後ポートアイランドの埋め立てが始まり六甲山系が整備され、1986年に神戸市北区に基幹病院として新築移転しました。もともとは結核病棟などもありましたが、移転後は総合病院として、さらに2014年からは独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)57施設の中の1病院として医療活動を行っています。

専門科診療も大切にしつつ 総合診療を進めていく

病気であるかを見つけることは一番難しいことです。まず総合内科で診断して、一般的な胸痛などであればそこで治療に入りますし、もっと重篤な病

市とほぼ同じくらいです。当院は北

——特に特色がある診療科はどういった科ですか。

大友 当院の特徴としては、すべて

先生が充実することは、非常に助かります。患者さんの訴えからどんな病気であるかを見つけることは一番難しいことです。まず総合内科で診断して、一般的な胸痛などであればそこで治療に入りますし、もっと重篤な病

本部の考えている方向性とこちらの病院の方向性がかなり同じだということですね。

大友 そうですね。かつては、それぞれの診療科がそれぞれの方向を目指してやつっていましたが、JCHOの尾身理事長の考え方を院長としてしっかりとお聞きして、病院全体が同じ方向を向くことが大切だと思っています。ただ急性期を放棄するつもりはまったくありません。急性期を中心とすることですが、住民の皆さんの希望でもありますし、期待もされています。高台にあり市街地からやや隔離されています。夏には合宿もしたりしてアビュールしてきましたから、今ではすいぶん実力もついてきました。

内科の専門の先生に来ていただきて、夏には合宿もしたりしてアビュールしてきましたから、今ではすいぶん実力もついてきました。例えば救急では「胸が痛い」と言って、いろいろな病気が考えられますが、何よりも複数の医師に診てもらいます。とはいっても、いろいろな病気が考えられることは同じにしたということです。

区内では最も規模の大きな公的病院になりますので、区民にとつてより身近で安心感のある地域医療を提供すると共に、大学の関連病院、また数々の研修認定を受ける中核病院として、より高度な医療の提供に努めています。

JCHOグループの掲げる診療は「総合診療」です。これまでの専門分野の治療に加え、多数の併存する疾患に対し、幅広い知識と的確な判断にて、専門医との連携のもと、患者さんの立場に立った医療を提供したいと考えています。

高齢者の場合は、1つの病気だけではなく、いろいろな病気が絡み合っているたり、疾病を併発したりすることが多いので、とりわけ内科分野を総合的に診ることができる医師を育てています。当初は月に1回は総合

病院になりますので、各専門科に送ります。JCHOの中に総合診療医が増えてくれば、将来無医村や医師がない地域の病院に行つていただこうともできるようになるでしょう。

——本部の考えている方向性とこちらの病院の方向性がかなり同じだということですね。

大友 そうですね。かつては、それぞれの診療科がそれぞれの方向を目指してやつっていましたが、JCHOの尾身理事長の考え方を院長としてしっかりとお聞きして、病院全体が同じ方向を向くことが大切だと思っています。ただ急性期を放棄するつもりはまったくありません。急性期を中心とすることですが、住民の皆さんの希望でもありますし、期待もされています。高台にあり市街地からやや隔離されています。夏には合宿もしたりしてアビュールしてきましたから、今ではすいぶん実力もついてきました。

内科の専門の先生に来ていただきて、夏には合宿もしたりしてアビュールしてきましたから、今ではすいぶん実力もついてきました。例えば救急では「胸が痛い」と言って、いろいろな病気が考えられますが、何よりも複数の医師に診てもらいます。とはいっても、いろいろな病気が考えられることは同じにしたということです。

地域包括ケアは具体的に何をしているのか、ということですが、今まで以上の医師にとっても新鮮な情報や知識を身につけられる利点があります。さらに医師同士の交わる機会も増えて他科の医師に気苦労なくアドバイス受けることができます。

診療科別では救急診療に関わる科のアクティビティが高いようです。脳卒中や心筋梗塞などの疾患では、もともと急を要する疾患でありました。最近では治療法や薬剤の進歩もあって、更に時間との勝負が予後に影響する状態になっています。発症から限られた数時間のうちにカテーテル室に入つて血栓を除去するということが必要なわけです。今までカテーテル室1部屋を循環器内科と脳神経外科で共用していましたが、今年度から新しく血管内撮影装置の部屋をもう1部屋造設しました。結果的には非常に患者さんも増えましたたとえば心臓のカテーテル治療件数は数年前までは100数十例だったのですが、現在は300例を超えるくらいになりました。神戸市本院もその中の1次／2・5次までの救急を担っています。あくまでも急性期病院としてやつていながら、方向性を同じにしたということです。

——特に特色がある診療科はどういった科ですか。

大友 特に特色がある診療科は

——特に特色がある診療科はどういった科ですか。

大友 当院の特徴としては、すべての診療科の垣根が低いことです。特に内科系の診療科では昔から専門医が違います。総合診療をしながら、地域医療に関しても、まだ完成形ではなく、確かに人は集まってきたが、各医師の考え方が異なっています。将来開業をしたい人や、離島に行きたい人、大病院でプライマリケアしたい人等々、それぞれの目的が違います。総合診療をしながら、かかりつけ医の制度もなかなか浸透しませんので、本院から近隣病院へ医師を派遣したり、それほど悪いところがなくても

不安感の強い方には1年に1回くらいいは本院の外来に来ていただける様、開業医の先生方と連携するパートナッチャ紹介という制度を作り、外を身軽にしています。

病診連携を密にすることが地域包括ケアにつながる

病診連携を密にすることが地域包括ケアにつながる

◆大友 敏行 プロフィール
1975 関西医科大学卒業
同第二生理学教室助手
1978 松下記念病院
京都府立医科大学第二内科学教室入局
1983 社会保険神戸中央病院(現JCHO神戸中央病院)内科医長
1985 同循環器内科部長
2005 同医務局長
2006 同副院長
2013 同院長
◎資格及び専門分野
医学博士、日本内科学会認定内科医、日本循環器学会専門医、日本高血圧学会指導医、日本医師会認定産業医、人間ドック学会専門医
【得意分野】狭心症、心筋梗塞、高血圧症